

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年11月10日
【四半期会計期間】	第20期第2四半期（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）
【会社名】	株式会社サイトリ細胞研究所
【英訳名】	Cytori Cell Research Institute, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 星野 喜宏
【本店の所在の場所】	東京都千代田区大手町一丁目1番1号
【電話番号】	03 - 6860 - 5701
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部長 藤村 剛
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区大手町一丁目1番1号
【電話番号】	03 - 6860 - 5701
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部長 藤村 剛
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期 第2四半期 連結累計期間	第20期 第2四半期 連結累計期間	第19期
会計期間	自 2022年 4月1日 至 2022年 9月30日	自 2023年 4月1日 至 2023年 9月30日	自 2022年 4月1日 至 2023年 3月31日
売上高 (千円)	1,172,744	862,531	2,144,712
経常損失 () (千円)	437,370	423,528	862,208
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失 () (千円)	561,281	443,334	1,059,941
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	561,283	442,854	1,059,733
純資産額 (千円)	3,155,188	2,213,719	2,656,682
総資産額 (千円)	14,239,754	13,598,409	14,091,635
1株当たり四半期(当期)純損失 () (円)	62.86	49.65	118.71
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	20.6	14.7	17.3
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	19,849	367,057	39,518
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	93,753	3,492	283,065
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	66,646	94,430	294,227
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	560,857	208,070	673,050

回次	第19期 第2四半期 連結会計期間	第20期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年 7月1日 至 2022年 9月30日	自 2023年 7月1日 至 2023年 9月30日
1株当たり四半期純損失 () (円)	30.66	31.59

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、潜在株式が存在しますが1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業の内容について重要な変更はありません。

なお、当第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であったホテルKANAZAWA(同)は、当社の連結子会社であるホテル金沢㈱を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

また、当社の連結子会社であるホテル金沢㈱が新設分割により設立した㈱ホテル金沢を当第2四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

当該新設分割は、ホテル資産の所有とホテル事業の運営を分離して、ホテル収益の明確化、経営効率の向上を目指したものであり、ホテル資産を所有するホテル金沢㈱と、ホテル事業を運営する㈱ホテル金沢に新設分割したものであります。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

継続企業の前提に関する重要事象等について

当社グループは、継続して営業損失を計上しており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。このような状況の解消を図るべく、当社グループでは医療機器の販売を中心とするビジネスモデルから細胞治療を主軸とした医療サービスへのシフトを加速し、収益の改善に取り組んでまいります。

資金面につきましては、当第2四半期連結会計期間末において、658百万円の現金及び預金を保有しており、当面の事業資金を確保しております。また、保有不動産の売却を進めて資金を確保してまいります。

以上のことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間（2023年4月1日～2023年9月30日）における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症に係る行動制限の緩和により個人消費やインバウンド需要が回復したものの、資源価格の高騰や物価の上昇等により先行きは依然不透明な状況が続きました。

このような状況の下、当社グループにおきましては、事業基盤の整備・拡充、ならびに事業領域における競争力強化、収益性向上に鋭意取り組んでまいりました。

以上の結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間における連結売上高は862百万円（前年同四半期比26.5%減）、営業損失は354百万円（前年同四半期 営業損失380百万円）、経常損失は423百万円（前年同四半期 経常損失437百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は443百万円（前年同四半期 親会社株主に帰属する四半期純損失561百万円）となりました。

なお、当第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であったホテルKANAZAWA(同)は、当社の連結子会社であるホテル金沢㈱を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

また、当社の連結子会社であるホテル金沢㈱が新設分割により設立した㈱ホテル金沢を当第2四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(メディカル事業)

当第2四半期連結累計期間におけるメディカル事業は、医療機器として認可を受けたセルレーション遠心分離器と高度管理医療機器クラスとして認可を受けたセルセラピーキットを国内の医療機関へ積極的に販売をしております。しかしながら、アライアンス先の選定及び細胞治療サービスの提供開始が当初想定より遅れていること等により、当第2四半期連結累計期間のメディカル事業の売上高は44百万円（前年同四半期比46.6%減）となり、営業損失284百万円（前年同四半期 営業損失118百万円）となりました。

(リアルアセット事業)

当第2四半期連結累計期間におけるリアルアセット事業は、ホテル金沢㈱において新型コロナウイルス感染症の影響により低迷していた宿泊・宴会の売上が回復したものの、前期の匿名組合出資金持分売却等が影響し、当第2四半期連結累計期間のリアルアセット事業の売上高は817百万円（前年同四半期比24.9%減）となりました。営業損益につきましては、ホテル金沢㈱の売上が順調に推移したことにより、営業利益17百万円（前年同四半期 営業損失187百万円）を計上することとなりました。

財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は1,018百万円となり、前連結会計年度末に比べ369百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金の減少によるものであります。固定資産は12,580百万円となり、前連結会計年度末に比べ123百万円減少いたしました。

この結果、総資産は13,598百万円となり、前連結会計年度末に比べ493百万円減少いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は1,312百万円となり、前連結会計年度末に比べ138百万円増加いたしました。これは主に短期借入金の増加によるものであります。固定負債は10,072百万円となり、前連結会計年度末に比べ188百万円減少いたしました。これは主に長期借入金の返済によるものであります。

この結果、負債合計は11,384百万円となり、前連結会計年度末に比べ50百万円減少いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は2,213百万円となり、前連結会計年度末に比べ442百万円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は14.7%（前連結会計年度末は17.3%）となりました。

(2) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

新型コロナウイルス感染症の影響による会計上の見積りについては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（追加情報）」に記載しております。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、208百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果、減少した資金は367百万円（前年同四半期は19百万円の増加）となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失の計上及び利息の支払によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果、減少した資金は3百万円（前年同四半期は93百万円の減少）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果、減少した資金は94百万円（前年同四半期は66百万円の減少）となりました。これは主に長期借入金の返済による支出が短期借入れによる収入を上回ったことによるものであります。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当社グループにおきましては、メディカル事業において、医療機器として認可を受けたセルーション遠心分離器と高度管理医療機器クラスとして認可を受けたセルセラピーキットを使用し、男性腹圧性尿失禁の疾患について厚生労働省の製造販売承認を取得しております。

今後も、複数の疾患に対しての臨床研究の実施を予定しており、これら臨床試験は基本的には医師主導で行うこととしておりますが、一部の治験を企業負担で実施しております。

当第2四半期連結累計期間における研究開発活動の金額は、176百万円であります。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	28,000,000
計	28,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年11月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品取 引業協会名	内容
普通株式	8,929,419	8,929,419	東京証券取引所 (スタンダード市場)	単元株式数は、 100株でありま す。
計	8,929,419	8,929,419	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日	-	8,929,419	-	100,000	-	2,445,118

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
アクア戦略投資事業有限責任組合	東京都千代田区永田町1-11-30	2,465,041	27.60
株式会社HGキャピタル	大阪府大阪市中央区南船場2-12-16	527,498	5.90
株式会社東京ウエルズ	東京都大田区北馬込2-28-1	409,185	4.58
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1-6-1	390,300	4.37
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1-2-10	389,200	4.35
CytoriMBO有限責任事業組合	東京都千代田区永田町1-11-30	374,718	4.19
堀江 聡寧	東京都港区	365,306	4.09
窪田 芳郎	東京都大田区	354,036	3.96
橋本 征道	東京都港区	327,710	3.67
GMOクリック証券株式会社	東京都渋谷区道玄坂1-2-3	321,900	3.60
計		5,924,894	66.36

(注) 発行済株式総数の10分の1以上の数の株式を保有する大株主1名を含め、上位10名の株主を記載しております。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,892,000	88,920	-
単元未満株式	普通株式 36,419	-	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	8,929,419	-	-
総株主の議決権	-	88,920	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式50株が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
(自己保有株式) 株)サイトリ細胞研究所	東京都千代田区大 手町1-1-1	1,000	-	1,000	0.01
計	-	1,000	-	1,000	0.01

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 退任役員

役職名	氏名	退任年月日
取締役	白浜 靖司郎	2023年7月31日

(2) 異動後の役員の男女別人数及び女性の比率

男性6名 女性 - 名(役員のうち女性の比率 - %)

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人ハイビスカスによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,123,050	658,070
売掛金	113,144	109,896
商品	116,211	171,019
その他	35,793	79,384
流動資産合計	1,388,200	1,018,370
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	4,231,334	4,142,765
土地	7,252,244	7,252,244
その他(純額)	243,607	238,844
有形固定資産合計	11,727,186	11,633,854
無形固定資産		
のれん	647,145	624,179
その他	41,682	35,122
無形固定資産合計	688,828	659,302
投資その他の資産	287,419	286,882
固定資産合計	12,703,434	12,580,039
資産合計	14,091,635	13,598,409
負債の部		
流動負債		
短期借入金	500,000	600,000
1年内返済予定の長期借入金	401,237	411,294
その他	272,386	301,024
流動負債合計	1,173,624	1,312,319
固定負債		
長期借入金	7,605,855	7,401,475
匿名組合出資預り金	1,078,884	1,074,362
繰延税金負債	1,436,377	1,459,085
その他	140,212	137,446
固定負債合計	10,261,328	10,072,370
負債合計	11,434,953	11,384,689
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	2,939,268	2,939,268
利益剰余金	596,921	1,040,255
自己株式	1,240	1,348
株主資本合計	2,441,106	1,997,664
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	66	143
その他の包括利益累計額合計	66	143
新株予約権	211,501	211,501
非支配株主持分	4,007	4,409
純資産合計	2,656,682	2,213,719
負債純資産合計	14,091,635	13,598,409

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	1,172,744	862,531
売上原価	634,678	134,423
売上総利益	538,065	728,108
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	202,797	214,725
減価償却費	140,627	104,837
その他	575,626	762,617
販売費及び一般管理費合計	919,050	1,082,180
営業損失()	380,985	354,071
営業外収益		
受取保険金	-	3,085
助成金収入	22,758	-
利子補給金	2,365	2,167
その他	3,423	4,713
営業外収益合計	28,548	9,966
営業外費用		
支払利息	59,664	79,310
アレンジメントフィー	25,000	-
その他	269	112
営業外費用合計	84,934	79,422
経常損失()	437,370	423,528
特別利益		
その他	0	-
特別利益合計	0	-
特別損失		
関係会社出資金売却損	107,628	-
減損損失	6,172	-
その他	619	274
特別損失合計	114,419	274
匿名組合損益分配前税金等調整前四半期純損失()	551,790	423,803
匿名組合損益分配額	12,785	4,521
税金等調整前四半期純損失()	539,005	419,281
法人税、住民税及び事業税	960	983
法人税等調整額	21,300	22,668
法人税等合計	22,260	23,651
四半期純損失()	561,266	442,932
非支配株主に帰属する四半期純利益	15	402
親会社株主に帰属する四半期純損失()	561,281	443,334

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純損失()	561,266	442,932
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17	77
その他の包括利益合計	17	77
四半期包括利益	561,283	442,854
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	561,299	443,256
非支配株主に係る四半期包括利益	15	402

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	539,005	419,281
減価償却費	145,803	104,837
のれん償却額	22,966	22,966
関係会社出資金売却損	107,628	-
売上債権の増減額(は増加)	10,029	3,248
棚卸資産の増減額(は増加)	22,019	56,618
仕入債務の増減額(は減少)	12,054	114
営業投資有価証券の増減額(は増加)	337,667	-
その他	3,072	57,685
小計	78,197	287,276
利息の支払額	55,744	78,657
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	2,603	1,122
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,849	367,057
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	150,000	-
有形固定資産の取得による支出	114,616	3,511
無形固定資産の取得による支出	5,600	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	198,497	-
その他	22,035	18
投資活動によるキャッシュ・フロー	93,753	3,492
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	-	100,000
長期借入れによる収入	2,500,000	-
長期借入金返済による支出	2,621,914	194,322
匿名組合員からの払込みによる収入	55,264	-
その他	3	107
財務活動によるキャッシュ・フロー	66,646	94,430
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	140,550	464,980
現金及び現金同等物の期首残高	701,558	673,050
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	150	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	560,857	208,070

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であったホテルKANAZAWA(同)は、当社の連結子会社であるホテル金沢(株)を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

また、当社の連結子会社であるホテル金沢(株)が新設分割により設立した(株)ホテル金沢を当第2四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

当該新設分割は、ホテル資産の所有とホテル事業の運営を分離して、ホテル収益の明確化、経営効率の向上を目指したものであり、ホテル資産を所有するホテル金沢(株)と、ホテル事業を運営する(株)ホテル金沢に新設分割したものであります。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症による影響

当第2四半期連結累計期間において、新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方、収束時期やその影響の程度の見積り及び判断の基となった仮定について、前連結会計年度から重要な変更を行っておりません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金勘定	860,857千円	658,070千円
預入期間が3ヶ月超の定期預金	300,000	450,000
現金及び現金同等物	560,857	208,070

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	メディカル事 業	リアルアセッ ト事業	計		
売上高					
メディカル	83,682	-	83,682	-	83,682
ホテル業	-	414,786	414,786	-	414,786
不動産業	-	650,238	650,238	-	650,238
顧客との契約から生じる収益	83,682	1,065,024	1,148,706	-	1,148,706
その他の収益	-	24,037	24,037	-	24,037
外部顧客への売上高	83,682	1,089,062	1,172,744	-	1,172,744
セグメント間の内部売上高又は振 替高	-	-	-	-	-
計	83,682	1,089,062	1,172,744	-	1,172,744
セグメント損失()	118,757	187,918	306,675	74,309	380,985

(注)1 セグメント損失の調整額 74,309千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	メディカル事 業	リアルアセッ ト事業	計		
売上高					
メディカル	44,646	-	44,646	-	44,646
ホテル業	-	640,248	640,248	-	640,248
不動産業	-	126,471	126,471	-	126,471
顧客との契約から生じる収益	44,646	766,720	811,366	-	811,366
その他の収益	-	51,165	51,165	-	51,165
外部顧客への売上高	44,646	817,885	862,531	-	862,531
セグメント間の内部売上高又は振 替高	-	-	-	-	-
計	44,646	817,885	862,531	-	862,531
セグメント利益又は損失()	284,847	17,430	267,417	86,654	354,071

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額 86,654千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載の通りであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純損失()	62円86銭	49円65銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失() (千円)	561,281	443,334
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四 半期純損失()(千円)	561,281	443,334
普通株式の期中平均株式数(株)	8,928,561	8,928,418

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しますが1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

重要な子会社等の設立

当社は2023年10月5日開催の取締役会において、以下のとおり子会社を設立することを決議いたしました。当該子会社の資本金の額が当社の資本金の額の100分の10以上に相当するため、同社は当社の特定子会社に該当することとなります。

1. 設立の目的

当社グループは、メディカル事業にて、脂肪組織再生由来(幹)細胞を用いた細胞治療の研究、医療機器の製造・輸出入・販売を中心に展開しております。今般、当社グループの持続的な成長と企業価値向上を図るため、動物を対象とした細胞治療を事業の主な目的とし、既存療法では治療が困難な伴侶動物や畜産動物・競走馬などへの細胞治療の提供、治療有効性の確立・普及を進めてまいります。

これまでヒト医療において確立した技術・事業を動物医療分野でも先進的に進めることを目的に設立するものであります。

2. 設立する子会社の概要

- (1) 名称 株式会社アニマルセラピー
- (2) 所在地 東京都千代田区大手町一丁目1番1号
- (3) 事業の内容 動物を対象とした細胞治療
- (4) 資本金 10百万円
- (5) 設立の時期 2023年11月1日
- (6) 出資比率 当社100%

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月10日

株式会社サイトリ細胞研究所

取締役会 御中

監査法人ハイビスカス
東京事務所

指 定 社 員 公認会計士 阿 部 海 輔
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公認会計士 福 田 健 太 郎
業 務 執 行 社 員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社サイトリ細胞研究所の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社サイトリ細胞研究所及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。